
Black Cherry
いんとう きゅうていし
淫蕩宮廷史
淫帝と呼ばれた美少年
成年コミック
第4話
Presented by Hagiyoshi
はぎよし

淫蕩妊娠宮史

いんとうきゅうていし

淫帝と呼ばれた美少年

長きにわたった
隣国との領土争いが
勝利のうちに終結し

国内は
祝いのムードに
包まれていた

此度の勝利は
共に艱難辛苦に
立ち向かってくれた
民の力
あってのものだ

第4話

ああしていれば
ただ無垢な
少年に
見えるのに


皆さまこの度は
ご足労いただき
ありがとうございます
特別な戦果を挙げた
戦士への慰労として
男娼による接待があります
俺達が宮殿に
呼ばれるなんて…
特別な戦果…？
そんなものは
シッ！
黙っておけ！
お前
何かしたのか？
するわけ
ねえだろ！
俺をなんだと
思ってんだ！
陛下から賜る男娼だ
きっと上物中の上物に
違いない
貰えるものは
貰っておこうぜ
――覚えがないのも当然だ
なにせこれも皇帝の
気まぐれにすぎないのだから

私も彼らも所詮陛下の玩具にすぎない――




此度の戦も
勝ったはいいが――
貧困層の生活は
より一層苦しくなった
だというのに宮殿では
三日三晩 贅を
凝らした宴三昧
そのうえ陛下は
この様子だ
私は彼を切り捨て
国を守るという選択を
迫られているのかもしれない――


皆さま
ようこそ
国のために
よく戦って
くださいました
どうぞ私の身体で
好きなだけ
戦場での憂さを
晴らしてください
へこっ♡
へこっ♡
ん～っ!!
おい…
あの男娼皇帝陛下に
そっくりじゃないか？
確かに…
でも皇帝が
こんなところに
いるわけないだろ！
まそうだな
馬鹿どもめ…
余は皇帝そのもので
あるというのに


皆さんどうか
私の身体を
存分に味わって
ああ…
むしろあの美しい皇帝を
犯せるみたいで
興奮してきた…！
はあ…
すっごい雄臭…♡


おあっ…
舌遣いやべー!…
俺らのも
扱いてくれよ
この噎せ返るような
雄の匂い…
胎が疼いて
仕方なく
なる…っ♡
あーもう
待てねえ
早く
俺のチンコも
しゃぶれよ
!?


出すぞ！
しっかり
喉マンコ締めろよ！


ドピュッ♡
ドピュッ♡
ドピュッ♡


こちらのチンポも
硬くて立派
れふねぇ…♡
はーっ♡
はーっ♡
随分余裕だなぁ？
こっちはいいのかよ
ぐぷぷぷ…♡
あっ♡
やばイ…っ♡
くにっ♡
くにっ♡
ガリガリ♡
ガリガリ♡
グリ♡
グリ♡
そこっ
ぐりぐり
気持ちいい♡
ガク♡
ガク♡
ガク♡
はーっ♡
はーっ♡


お～…♡
ぬぽ♡
ぬぽ…♡
はぁ…
はぁ…っ♡
ギシ…
まさかもう
終わりってことは
ないよなぁ？
もっと楽しませて
くれるんだろ？
勿論(もちろん)…
むしろ
ここからが
本番です…っ♡
ぬぢ♡ぬぢ♡
ぐぽ♡
ぐぽ♡
楽しむのは
お前達ではなく
余だがな


ヤバ…
すっげえ締まる…
ぱちゅっ♡
ぱちゅっ♡
腰遣い
エグ…
ぐぽ♡
ぐぽ♡
ぐぽ♡


次の勇士様は
どなたでしょうか？
私は皆さんの
性奴隷ですから
好きなように
ずぽずぽして
いっぱいお精子
注いでくださいね♡
くちゅ…♡♡
ふん…
いい根性
してんな
上等だ
俺のチンポに屈しろ
淫乱メスアナルが！
ずぽぉ♡♡
自分が性奴隷の側だと
分かってない
豚ども　め……あっ♡♡
チンポのことしか
考えられなくなる…ッ


ああっ♡
気持ちいいところ
すり潰されるっ♡
もっと♡
もっと気持ちいいの
ほひいれすっ
こんなザーメン
垂らしながら
まだ中出し懇願かよ！
こんなド淫乱男娼と
瓜二つとか
皇帝陛下が
泣くぞ！


泣くどころか…
ぱんっ
ぱんっ♡
ぱん♡
こんな…っ
雄臭い精に溺れるこの感覚…
ビュルルル


次
俺に代われよ
ヒルカ
ガクガク
おぉぉぉぉっ
ぱちゅんっ
ぱちゅんっ
おっ
ぱちゅんっ
ぱちゅんっ
おっ
ぱちゅんっ
ひぅぅ
はぁ～～
もむりっ♡
へんになるっ♡
はぁ～～
上も下もズコバコ
ハメられてんのに
まだ吸い付きすげえぞ
ずいっ
ぬぽっ
ぬぽっ
よがってないで
こっちもちゃんと
奉仕しろよ


そんなに中出し
してほしいなら
チンポ奴隷ですって
宣言しろよ！
はひっ♡
わたしはっ
おちんぽの
奴隷ですっ♡
もっと
ぐちゃぐちゃに
なるまでっ種付け
してくださいっ♡
淫乱マゾ
奴隷がよ！
いいぜ
お望み通り
腹の奥まで
マーキングしてやる！


…摂政殿
あなたは…
私の婚儀について
陛下があのように
行動すると
理解しながら
唆したのでしょう
答えてください
……ユリウス
私はね
人が苦しむところを
見るのが大好きなの
ただそれだけよ

民を苦しめる
臣下を苦しめる
愛した人間(皇帝)も
息子も…

彼らの苦しみこそ
私の愉悦
そして愛玩



いずれこうなるように
育てたのだから…
私が見たい景色を
見せてくれるモノとして

放っておけば
国を食い潰す
怪物になるように

あの子だけでも
救い出したいと
思ったのかしら

無駄よ

だってあの子は
…私の子だもの

さぁどうするの
ユリウス？


私は貴方の
決断によって
見られる結末を
愉しみにしているわ
それが
どんなもので
あってもね
あなたは自身の
行いによってその身が
破滅しても
よいというのか…？
…ええ
権力を得て私腹を
肥やしたいという
欲望のほうが
まだ理解はできる
私の大切な…
あなたが
決めたことだもの
だがこんな
人格破綻者が国を
治めているなど…

私の選択…


陛下の行動 人格は
国を治める者として
看過できないところまで
きている
実際
あの一件以来
私は彼を憎いとさえ
思っている
けれど…彼がいてくれて
よかったと思える気持ちが
あったのも事実だ

それでも——


陛下
ん…？




は…？
なんの真似だ
これは…


陛下…いえ
ヘリオガエリス
あなたは自身の
行いによって
人心が離れていることに
気付けなかったのですね
私はあなたがた
親子の罪を断罪し
この国を浄化する


あなたが犯した
数々の罪はその身をもって
裁かれるべきです
よって
これまでの行いを
全て民衆に開示しました
何をする！
連行しろ
ガッ
色欲狂いの
穢れた皇帝が！
死ね！
信仰を踏みにじった
裏切者！
死ね！
邪悪な呪術師と
その息子め！
死ね！
死ね！


ディアーナから
処刑しろ
次は
ヘリオガエリスだ
何故だ
ユリウス！
お前は
余の所有物で
あろうが！
裏切るなど…！
母う――
え…
ガッ
……ッ！


待て！
申し訳ありません
見失いました
構わない
…もうなんの力もない
ただの子供だ 放っておけ
我々が手を下さずとも
どうせすぐに殺される
——王族しか知らない
脱出通路を使ったか
生かすことと
殺してやること
どちらが
私の主ではなくなった
彼にとっての
幸せだっただろうか——


余は…
神の化身たる
皇帝なのだ…
だから絶対に
こんなこと
あってはならない…
許さない…
全部許さない…
絶対に
都に返り咲いて
…余こそがただ一人の
皇帝だということを
認めさせてやる…
あなたが犯した
数々の罪は
その身をもって
裁かれるべきです


ユリウス……
おい


なっ…
なんだ
貴様ら！
余に
気やすく…
お前 ここが
俺らのテリトリーだって
分かってんだろうな？
よく見たら
上物じゃねえか


ここにいるってことは
俺らの肉便器になる
覚悟があるんだよな？
盗賊くずれが
余に触るな！
ああ？ こいつ
上流のガキか？
優雅な生活
してたのがこんな
きったねえ場所で
これから犯される
気分はどうだ？
あ…れ…
なんでこんな
状況なのに
低俗で野卑な
盗賊どもの
チンポに昂(たかぶ)って
しまってるんだ…


お前たち！
皇帝たる余に
何をしているのか
分かっているのか！
全員まとめて
晒し首に……
皇帝～？
やれるもんなら
やってみろよ！
お前ら
見たことあるか
皇帝様だってよ！
このガキが
皇帝だったら面白いよな
ホラ皇帝様
チンポしゃぶれよ！
ガッ
ぐぽぐぽぐぽ
あ…嫌だ…
嫌なはずなのに
どうして…
ぐぷっ
錯乱した生意気
メスガキが！
犯されて
勃ててんじゃ
ねえよ
ぐちゅ
ぐぷ
あっ！
ケツも
準備万端
じゃねえか
皇帝様（笑）の
ケツマンコ
俺が最初に味見な
ぐぽ
ぐぽぐぽ
ふぅ
ぐぽ
ぐぽぐぽぐぽ


挿れただけで
イってんじゃねえか
ぱんっ♡
ぱちゅっ♡
あーやば
出る
ぴゅっぴゅっ…
こいつの
顔面にでも
出しとけよ
どぴゅっ
皇帝様がこんな
メスザコアナルなんて
全国民が泣いちまうぞ！
うぁ…っ
はぁ…っ♡
ぱちゅっ♡
ぱちゅっ♡
びゅるるっ
ぱんっ♡
ぱんっ♡
俺らのうちの
誰一人にも勝てねえ上に
チンポにも負けて
メスイキするような
ただのガキが皇帝だなんて
お笑い種もいいところだな！
こっちにも
集中しろよ
ビクッ
ビクン
ぱんっ♡
ぱんっ♡
ぱんっ♡


大体なあ！
皇帝サマが貧民を
虐げたせいで俺らは
盗賊やってんだぜ？
ぱんぱんぱんぱん♡
ぱちゅぱちゅぱちゅ♡
ぱちゅぱちゅぱちゅ♡
あっ♡
ぎっ♡
ぐっ♡
ぐぇ♡
ぐぇ♡
民の声を聞くのが
王ってもんだろ？
じゃあ俺らのチンポも
ケツで扱くのが
道理だよなぁ!?
おぢゅ♡
おぢゅ♡


ゴミ扱い
してきた貧民に
謝罪アクメキメろ！
ぱちゅっ♡
ぱちゅぱちゅ♡
ぱちゅぱちゅ♡
顔とケツの具合だけは
良いからな
お前は今日から
俺らの性奴隷だ
お前の存在価値は
それだけ


余は……
ぼくは――
皇帝になんて
ならないほうが
よかったのか…
ご…ごめ…
ごめ…なさ…っ
なんだ？
何か言ったか
パーン
ごめんなさい…
ごめんなさい…っ
悲しいはずなのに
身体は悦んで
いるのだから
心がどう思おうが
もうどうだっていい
黙れよ肉便器


ドロォ…
――ああ
でも本当は
いつも笑った顔が
見たかった気がする
もっと一緒に
いたかった
もっとはやく
気付けばよかった
いつから
壊れちゃったんだろう
誰が壊したんだろう
そうか
最初から
壊れてたのは
――ぼくだったんだ
おわり



Black Cherry

ブラックチェリーコミックス

淫蕩宮廷史

～淫帝と呼ばれた美少年～

第4話

漫画◉はぎよし

装丁◉マイクロハウス
発行◉株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041　東京都中央区新富 1-3-7 ヨドコウビル
編集部 TEL03-3551-6147 ／ FAX03-3551-6146
販売部 TEL03-3555-3431 ／ FAX03-3551-1208

©Hagiyoshi 2021
※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

https://ktcom.jp/

本作品のご意見、ご感想をお待ちしております

本作品のご意見、ご感想、読んでみたいお話、シチュエーションなど、どしどし
お書きください！　読者の皆様の声を参考にさせていただきたいと思います。
手紙・ハガキの場合は裏面に作品タイトルを明記の上、お寄せください。

アンケートフォーム

https://ktcom.jp/goiken/

手紙・ハガキ・メールの宛先

〒104-0041 東京都中央区新富 1-3-7 ヨドコウビル
(株) キルタイムコミュニケーション
ブラックチェリーコミックス感想係
メールアドレス　blackcherry@ktcom.jp



Illustration by はぎよし
『淫蕩宮廷史 ～淫帝と呼ばれた美少年～』
©Hagiyoshi 2021